

人穴（人穴富士講遺跡）

様々な「胎内」洞穴と異なり、人穴は最初の富士講が組織されるよりずっと前から広く知られていました。13 世紀には、この穴は富士山の神「浅間大菩薩」の住まいであると記述され、一般に流通していた絵巻にはこの穴を通して冥界へと旅した武士の話が描かれていました。

人穴は中で人が立てるくらいの高さのひっそりとした神秘的な洞穴です。底部には常に水が溜まっています。17 世紀初期、この洞穴は長谷川角行（1541?-1646）という修験者の修行の場となりました。伝えられるところによると、角行は千日間をこの洞穴内で角材の上で瞑想して過ごしました。18 世紀半ばから、富士講のネットワークが広がるのにもなって、信仰の開祖である角行に参拝する霊場として、より多くの巡礼者が人穴を訪れるようになりました。洞穴の入り口には、今でもこれらの巡礼者たちが残した 200 基以上の石碑が立っています。

現在、人穴は富士宮市教育委員会によって管理されています。冬季を除き、事前予約による見学が可能です。